

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-11C	A-120	24-044	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Global and Regional Burden and Trend of Neoplasms Attributable to Alcohol Consumption in the Past 3 Decades 過去 30 年間におけるアルコール摂取に起因する新生物の世界的および地域的 h 負荷と傾向			
執筆者			
Song HW, Ge JH, Xie BX, Jiang MT, Pan JS.			
掲載誌			
J Addict Med. 2024 Jul-Aug 01;18(4):381-388. doi: 10.1097/ ADM.0000000000001288.			
キーワード			PMID
世界の疾病負荷 (Global Burden of Disease)、障害調整生存年 (DALY)、 飲酒、グローバルヘルス、悪性新生物			38408186
要 旨			
<p>目的： 高リスク患者を対象としたがんスクリーニングの知見を提供するために、1990 年から 2019 年までのアルコール摂取に起因する新生物の世界的および地域的の疾病負担を分析した。</p> <p>方法： Global Burden of Disease (GBD) 2019 データベースを用いて、死亡率、障害調整生存年 (DALY)、アルコール関連新生物の罹患患者数を抽出した。その後、がん種、性別、年齢、地域、社会人口統計学的指標別にデータを比較した。社会人口統計指数 (SDI) は、0 から 1 のスコアでランク付けされ、GBD 調査のすべての地域の 1 人当たり所得、平均教育達成度、出生率のレベルの総合平均を用いる。本研究においては、年齢標準化 DALYs 率 (ASDR) と死亡率の推定年間変化率 (EAPC) を計算し比較した。EAPC の計算は、Hankey らの方法に従った。</p> <p>結果： アルコールががんに与える影響は、主に下記の結果を示し、がんの種類、性別、年齢、地域によって異なっていた。(1)アルコール消費ががん負担に与える影響は、特定の腫瘍の種類、性別、年齢層、地域または国によって異なる。(2)咽頭、口唇、口腔に影響を及ぼすアルコール関連新生物の世界的負担は、過去 30 年間で大幅に減少していない。(3)乳がんを除き、女性と比較し、男性において有意に高い ASDR を示した。(4)2019 年には、男性では、アルコール消費に起因する DALY 数で食道がんが最も多く、肝臓がんと大腸がんがそれに続いた。(5)50 歳以上のグループでは、DALY の数と率が高かった。(6) SDI が低中・低の地域では、アルコール関連新生物の ASDR は 1990 年から 2019 年にかけて横ばいまたは増加した。</p> <p>結論： アルコール摂取は、がん罹患、特に消化器系の悪性腫瘍における重大なリスク因子である。したがって、対象となるがんスクリーニングは、飲酒を行う集団、特に経済的に恵まれない地域に居住する 50 歳以上の男性に向けられるべきである。</p>			